4日　水曜

黙示録

9:1 第五の御使いがラッパを吹いた。すると私は、一つの星が天から地に落ちるのを見た。その星には、底知れぬ所に通じる穴の鍵が与えられた。
9:2 それが底知れぬ所に通じる穴を開くと、穴から大きなかまどの煙のような煙が立ち上り、太陽と空はこの穴の煙のために暗くなった。
9:3 その煙の中からいなごが地上に出て来た。それらには、地のサソリが持っているような力が与えられた。
9:4 そして彼らは、地の草やどんな青草、どんな木にも害を加えてはならないが、額に神の印を持たない人たちには加えてよい、と言い渡された。
9:5 その人たちを殺すことは許されなかったが、五か月間苦しめることは許された。彼らの苦痛は、サソリが人を刺したときの苦痛のようだった。
9:6 その期間、人々は死を探し求めるが、決して見出すことはない。死ぬことを切に願うが、死は彼らから逃げて行く。
9:7 いなごたちの姿は、出陣の用意が整った馬に似ていた。頭には金の冠のようなものをかぶり、顔は人間の顔のようであった。
9:8 また、女の髪のような毛があり、歯は獅子の歯のようであった。
9:9 また、鉄の胸当てのような胸当てを着け、その羽の音は、馬に引かれた多くの戦車が戦いに急ぐときの音のようであった。
9:10 彼らはサソリのような尾と針を持っていて、その尾には、五か月間、人々に害を加える力があった。

Bible Reference 聖書の記述

9:11 いなごたちは、底知れぬ所の使いを王としている。その名はヘブル語でアバドン、ギリシア語でアポリュオンという。
9:12 第一のわざわいは過ぎ去った。見よ、この後、なお二つのわざわいが来る。
9:13 第六の御使いがラッパを吹いた。すると、神の御前にある金の祭壇の四本の角から、一つの声が聞こえた。
9:14 その声は、ラッパを持っている第六の御使いに言った。「大河ユーフラテスのほとりにつながれている、四人の御使いを解き放て。」
9:15 すると、その時、その日、その月、その年のために用意されていた、四人の御使いが解き放たれた。人間の三分の一を殺すためであった。
9:16 騎兵の数は二億で、私はその数を耳にした。
9:17 私が幻の中で見た馬と、それに乗っている者たちの様子はこうであった。彼らは、燃えるような赤と紫と硫黄の色の胸当てを着けており、馬の頭は獅子の頭のようで、口からは火と煙と硫黄が出ていた。
9:18 これら三つの災害、すなわち、彼らの口から出る火と煙と硫黄によって、人間の三分の一が殺された。
9:19 馬の力は口と尾にあって、その尾は蛇に似て頭を持ち、その頭で害を加えるのである。
9:20 これらの災害によって殺されなかった、人間の残りの者たちは、悔い改めて自分たちの手で造った物から離れるということをせず、悪霊どもや、金、銀、銅、石、木で造られた偶像、すなわち見ることも聞くことも歩くこともできないものを、拝み続けた。
9:21 また彼らは、自分たちが行っている殺人、魔術、淫らな行いや盗みを悔い改めなかった。

「いなご」と表現されるものは、闇から出てきます。人々が知らないうちにいつの間にか現れ、世に影響力を持つようになります。。「いなご」は本来激痛を与えるものではありませんが、いつの間か「死を願う」ほどの「苦痛」を与えるのです。サタンの戦略です。

クリスチャンもその正体に気づかないかもしれません。しかし「神の印を持たない人たちに」害を与えるとありますから、私たちの信仰は自分自身を守ることにもなるのです。信じる者には神の印が押されています。

「これらの災害によって殺さなかった人間」は悔い改めませんでした。終わりの日の一連の災害は、まだ神の最後のさばきではありません。神を侮っていた人々、また神に敵対していた人々が「悔い改める」ことを期待してのものなのです。しかし人々はそれでも神を認めようとしないということが分ります。人は弁解の余地はないのです。

主を認めて信じられるということは何と得がたいことでしょう。人は自分の力では、この超越的な方を知ることも、認めることもできないのです。イエス様の十字架も感謝ですし、その意味を教えていただき、受け入れることができるようにされたことも感謝です。

伝道している人は、人の力ではなく、主の恵によって救われるように祈り求めましょう。また終りの日を覚えて、今を生きましょう。

①神のみこころは？
②どんな思いになりましたか？
③生き方にどう適用しますか？
④この世にあって何を実践しますか？